



# 住民全員が 体験する 防災訓練をすすめる

静岡県静岡市  
大岩二丁目町内会





きのうの大雨がうそのように晴れあがった十一月十六日の日曜日、ここ静岡市の中心から北に四キロメートルほどいった大岩二丁目町内会では、地震を想定しての防災訓練が実施された。

朝九時、町内の九か所から、一斉に「火事だぞー」の聲が響きわたる。それぞれの火元では、消火器が出され、バケツに水が汲まれ、火元に擬せられた発煙筒にまかれた。一方、医療班による三角巾による応急処置、救護班が毛布と物干し竿で即席に作った担架にけが人をのせ、救護所へと運んでいく。最後に、警備班が一軒一軒家をまわり、確認をしていく。あわせて、それぞれ空き地では、炊き出し班の奥さん方が、マキと釜での炊き出しに余念がない。

また、地区の三か所では、消火班による放水訓練もあわせて行なわれた。各火元での活動が一段落すると、みんなは対策本部のある本屋さんの駐車場に集まってくる。ここでは、地元の東消防署の起震車も出動し、子どもたちが体験していく。そして、最後に、今回はじめて行なわれたのが、災害救助犬による救出のデモンストレーション。NPO法人災害救助犬静岡に所属するグーフィー号など五頭の救助犬が参加。並べられたいくつものダン



ボールを順に嗅ぎまわり、その中に入っている人が人にみたられた子どもを探し出していく。そのたびごとに参加者は歓声を上げ、拍手をする。当日の参加者は、およそ千人。

一昨年、同会では、防災訓練のあり方を大きく変えた。一言で言えば、「見学型訓練」から「体験型訓練」への転換。参加者一人ひとりがお客様ではなく、実際に訓練を体験できるようにしたこと。そのため、まずは防災組織の改革に取り組んだ。同町内会は世帯数八百三十世帯、人口は三千人を超える市内でも大きな町内会。九つの班に分かれて運営されているが、この班単位に防災会を組織した。各班防災会には、情報班、救出班、消火班、炊き出し班、救護班などが編成され、その防災員は九班を合計して五百六十人にもものぼるという。そして、この班単位の防災訓練が行なわれたもの。

同会のもう一つの特長は、この防災組織と福祉のボランティア組織を結びつけたことにある。例えば、防災活動での救出班は、福祉ボランティアでは「こそくり会」になる。「こそくり」とは、ちょっと直すという方言。大工・左官・塗装業などに携わる人たちで構成され、お年寄りの家の段差解消や手すりの設置などの簡単な工事、修理を行なう。輸送



■連絡先

〒420-0881

静岡市北安東2-2-13 鈴木昭二

TEL 054-245-5977

「ザ・町内会」なのだろう。

実は、この町内会長の鈴木昭二さんは、本誌で連載いただいている伊藤光造先生の論文にも登場している。伊藤先生は鈴木さんのことを「ザ・町内会長」と呼んでいる。その言を借りれば、大岩二丁目町内会自体がまさに

班は「車で送る会」になる。お年寄りが病院などに出かけるときに自動車で移送する役割を担う。さらに救護班は「訪問看護」に、消火班は「温泉の会」に、といった具合である。また、最近、「向こう三軒両隣救護活動」も新たにはじめた。これは、身体の不自由なお年寄りや障害者の人たちを、日頃から近所の人たちが見守り、さらに、災害時には避難・救出をするというものだ。